

設定した言語活動を通して育てたい力

○ スーパーマーケットの学習で習得した販売の工夫を活用して、行商の販売の工夫について考え、資料（VTR）と関連付けて説明することができる。

思考力、表現力の育成



- ◇ 学年 第3学年
- ◇ 単元名 店ではたらく人
- ◇ 本時の目標 行商は、消費者の思いや願いに合わせて販売方法を工夫していることについて、スーパーマーケットの販売の工夫と比較・関連付けながら考え、適切に表現することができる。
- ◇ 学習の流れ（13時間目／全14時間）

学習活動	指導上の留意事項（◇） （◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て）	評価規準〔観点〕 （評価方法）
1 前時までの学習を想起する。	◇既習事項の掲示を参考に想起させる。	
2 行商について知る。 ○ スーパーマーケットと比較する。	◇地元の尾道市内で見られる行商という販売形態について説明する。 ◇写真を見て、考えさせる。 ◇スーパーマーケットの売り方の工夫が行商にあてはまらないことをおさえる。	
3 学習課題を確認する。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     スーパーマーケットのような工夫はないのに、なぜ、行商の魚はよく売れるのだろうか。                 </div>		
4 予想する。	◇今日の学習に対する見通しをもたせる。 ◇スーパーマーケットでの学習で得た知識から予想させる。	
5 行商の様子をVTRで見る。	◇地元の尾道市内の魚の行商の様子をまとめたVTRを視聴させる。（5分） ◇売り方の工夫の視点で視聴させ、メモをとらせる。 ◆視聴後にペアトークを取り入れ、メモしたことを交流させ、全員に考えをもたせる。	
6 メモをもとに全体で交流し、まとめる。	◇VTRを根拠に、売り方の工夫について、全体で意見を交流をさせる。 （予想される児童の発言） ◇「一人一人の希望を聞いて切っていた。家族の人数にあわせて切っていた。」 ◇「おすすめの魚を教えてくれた。」 ◇「会話をしながらとても楽しそうだった。」 ◇「その場で切るのを見ることができるので安心。」 ◇「調理の仕方を説明していた。」 ◇「調理の悩みに答えていた。」 ◇「お客さんの名前を知っていた。」 など	
7 まとめと振り返りを行う。 ○ 今日の学習を振り返り、学習課題に対するまとめを考える。	◇今日の学習を振り返らせ、まとめを書かせる。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <b>【まとめ】</b>                      行商の人は、お客さんの言うとおりに新鮮な魚をさばいたり、調理の悩みに答えてくれたりして、また来てもらえるような売り方をしているから。                 </div>	
8 次時の学習内容を確認する。	◇これまでのスーパーマーケットや行商の学習を振り返り、売る側の工夫と買う側の願いとの関係を考えることを伝える。	

視聴する際の視点を明確にし、その視点に沿ったメモさせましょう。

★視点を明確にしておくことでメモをとることができます。また、メモをとらせておくことによって「6の学習活動」が充実します。

・販売の仕事には、店の形態や規模に応じた工夫があることを自分たちの生活と関連付けて考え、表現している。  
〔思考・判断・表現〕  
（発言・ワークシート）

スーパーマーケットの売り方の工夫と比較させるようにしましょう。

★スーパーマーケットの販売の工夫との共通点や相違点を明確にすることができ、思考を深めさせることができます。

設定した言語活動を通して育てたい力

- 米とりんごの作況指数に着目し、米とりんごの生産が盛んな理由を自然条件と関連付けて考察し、グラフを用いて根拠や解釈を示しながら説明することができる。

思考力、表現力の育成

- ◇ 学年 第2学年
- ◇ 単元名 日本の諸地域～東北地方～
- ◇ 本時の目標 東北地方の地域的特色を、産業を中核として多面的・多角的に考察し、自然環境と関連付けて適切に表現することができる。
- ◇ 学習の流れ (3時間目/全5時間)

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て)	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 米の生産地域を確認する。 ○ 東北地方と青森県の米の生産量を確認する。 2 りんごの生産地域を確認する。 ○ 青森県のりんごの生産量を確認する。 3 学習課題を確認する。 なぜ、青森県では米の生産量が多いのにりんごをたくさんつくってきたのだろうか。	◇東北地方が全国の約 1/4 を生産していることを確認させる。青森県は 11 位(平成 23 年)であることを押さえる。 ◇青森県が全国の約 1/2 を生産していることを確認させる。	
4 農家の経営の様子を資料を基に考える。 ○ 1 年間の米とりんごの生産過程を比較する。	◇本時の学習に対する見通しをもたせる。 ◇年間を通していろいろな仕事があること、米づくりと忙しい時期が一致することを読み取らせる。	グラフを提示し、作況指数 90% や 50% に線を入れ、着目させたい点を焦点化させましょう。
5 米の作況指数の変化の資料を基に考える。 ○ 青森県の米の作況指数の変化のグラフ(戦前まで)の特徴を読取る。 ○ 「やませ」による冷害について知る。 6 米とりんごの作況指数の変化の資料を基に考える。 ○ 二つのグラフを比較する。 ※個人思考をさせた後、グループで考えを深めさせる。	◇「作況指数」について説明する。 【収穫量の平年比】 ※米の場合は 90 以下が著しい不良であることを説明する。 ◇かつて青森県では、作況指数が 50 以下という著しく作況指数が悪い年があったことを読取らせる。 ◇年によって東北地方の太平洋側を中心に発生する「やませ」による冷害について説明する。 ◇米の作況指数の変化のグラフの上に、りんごの作況指数の変化のグラフを重ねて提示する。 ◇米の作況指数が悪い年に注目させる。 ◆グラフの読取りのポイントをマーキング等によって示す。 ◇米の作況指数が悪い年であっても、りんごの作況指数は悪くないことを読み取らせる。	★着目させたい点を焦点化させることにより、思考させたいポイントが明確となり、「6の学習活動」が充実します。
7 りんご栽培に適した自然条件について考える。 8 まとめと振り返り ○ 今日の学習を振り返り、学習課題に対するまとめを考える。 9 次時の学習内容の確認をする。	◇りんごは寒冷地が栽培に適していることを広島県のりんごの生産地域等をもとに考えさせる。 ◇青森県が決して最適地ではなく、袋かけなど様々な努力により栽培技術を進歩させてきたことを説明する。 青森県は「やませ」などのために冷害がおきやすく、米の収穫が減った。そこで米からの収入を補うものとして青森県の気候条件に合うりんごの栽培がかわせて行われるようになった キーワード： <u>やませ</u> 、 <u>冷害</u> 、 <u>米の生産量</u> 、 <u>自然条件</u> ◇次時は、東北地方の地域的特色を工業と他地域との結び付きとを関連付けて考察することを伝える。	・青森県の農業の特色を米とりんごの作況指数の比較を基に自然環境と関連付けて考察し、適切に表現している。〔思考・判断・表現〕(ノート・発言) 5～7の学習活動でキーワードとなる語句を板書に示しておきましょう。 ★学習内容の振り返りが容易にでき、学習課題に対するまとめを自分の言葉で表現することの支援となります。

設定した言語活動を通して育てたい力

○ 産業革命の影響について、複数の立場や視点から多面的、総合的にとらえることができる。

思考力、判断力の育成

- ◇ 学年 第2学年
- ◇ 単元名 イギリス産業革命
- ◇ 本時の目標 産業革命がもたらした変化について、複数の立場や視点から多面的、総合的に捉えることができる。
- ◇ 学習の流れ（3時間目／全3時間）

学習活動	指導上の留意事項（◇） （◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て）	評価規準〔観点〕 （評価方法）
<p>1 前時までの学習を振り返る。 ○ 資料とワークシートの記入内容を確認する。</p> <p>2 各資料が示す産業革命がもたらした変化について確認する。 ○ 教師の発問「産業革命がイギリス社会にもたらした変化にはどのようなものがありますか。」に答える。</p> <p>3 各資料を、産業革命の明の部分（成果）と考えられるものと、暗の部分（課題）と考えられるものに分ける。 ○ 各資料の番号をワークシートの明（成果）の欄と暗い（課題）の欄に分けて書き出す。</p>	<p>◇ 資料をもとにまとめたワークシートと、前時に使用した資料がどのように関連しているか確認させる。</p> <p>◆ 指名された生徒のつまずきに応じて、各資料がどのような変化を示すものであるか、補足説明を行う。 資料① イギリスの工業化と発展 資料② 都市化の進展 資料③ 都市化の進展による大気汚染、衛生、住環境、水質汚濁等の社会問題の発生 資料④ 幼い子どもたちが資本家によって劣悪な環境下で働かされる等の労働問題の発生 資料⑤ 都市化と資本主義体制の確立による貧富の差の拡大 資料⑥ 経済的自立を目指して真面目に努力することを善とする自立的経済倫理の定着 資料⑦ 交通の発達によるレジャーの大衆化とサービス革命</p> <p>◇ なぜそのように分けたかについて考えるよう助言する。</p>	<p>言葉だけでなく、資料を使って説明させましょう。</p> <p>★ 資料を使って説明することで、資料を読み取る方法を身に付けることができます。</p>
<p>4 なぜそのように分けたかを、他の生徒の説明を参考にして見直す。 ○ 指名された生徒は、ワークシートの内容をもとに、なぜそのように分けたかを説明する。</p> <p>5 なぜそのように分けたのかについて考えることで、それぞれの立場や視点に気付く。 ○ 教師の発問「あなたは、どのような立場や視点でそのように分けましたか。」に答える。</p>	<p>◇ 複数の立場や視点があることに気付かせるため、最初の発表者と異なる分け方をした生徒も指名し、発表させる。</p> <p>◇ 自分の意見を変更したい生徒がいる場合は、その理由を発表させる。</p> <p>◇ 国家と個人、産業資本家と労働者等の立場（視点）の違いにより、産業革命の影響に対する評価が異なることを理解させる。</p>	<p>「各資料を成果と課題に分けなさい」という曖昧な指示でなく、「何を根拠に分けるのか」を問い、立場や視点を明確にさせましょう。</p> <p>★ 立場や視点を明確することにより、友達の発表を聞く時や自分の考えを見直す時の見方・考え方が身に付きます。</p>
<p>6 振り返りをする。</p> <p>7 次時の学習内容を確認する。</p>	<p>◇ 多面的に見ることで歴史事象に対する評価が変わってくることを自覚するよう指導する。</p> <p>◇ 産業革命がもたらした課題を確認し、その解決策について考察することを伝える。</p>	<p>・ 産業革命がもたらした変化について、複数の立場や視点から多面的、総合的に捉えることができる。〔思考、判断〕（ワークシート、事後の評価問題）</p>

設定した言語活動を通して育てたい力

○ 事象の特色や事象間の関連を説明することや自分の考えを論理的に述べることができる。

思考力、判断力の育成

- ◇ 学年 第2学年
- ◇ 題材名 消費者保護と契約
- ◇ 本時の目標
  - ・「情報の非対称性」に気付き、消費者問題の原因を考察することができる。
  - ・消費者問題に関する複数の関係法律を比較検討し、記述内容の変化を読み取ることにより、社会の変化を推考することができる。

◇ 学習の流れ（1 1時間目／全1 2時間）

学習活動	指導上の留意事項（◇） （◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て）	評価規準〔観点〕 （評価方法）
<p>1 本時の目標を確認する。</p> <p>2 中古車の価格を決定する要因を考え、順位を付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中古車A、Bの販売価格が違う理由と順位を考える。</li> <li>○ 発表する。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">消費者問題の原因を考察しよう！</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇隣同士ペアで協議し、ワークシート1に示す、中古車A、Bの販売価格が違う理由とその順位について考えることを指示する。</li> <li>◇議論の際、「根拠を示す」、「相手の意見を尊重する」、「妥協点を模索する」ことを指示する。</li> <li>◆机間指導により生徒のつまづきを把握し、協議する内容と進め方を指示する。</li> <li>◇根拠を示しながら発表させる。さらに、話し合いの過程も発表させる。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">中古車A、Bの販売価格が違う理由を考えさせ、順位を付けさせましょう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">★何を目的に考えるのかを明確にすることができ、「3の学習活動」が充実します。</div>
<p>3 マトリックスへの付箋紙の貼り付けを通して、中古車販売者と購入者間の「情報の非対称性」に気付き、消費者問題の原因を考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 完成したマトリックスから、中古車販売者と購入者間の「情報の非対称性」を読み取り、消費者問題の原因を考察する。</li> <li>○ 発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇隣同士ペアで協議し、順位を付けた、中古車A、Bの販売価格が違う理由を付箋紙に書き出し、ワークシート2のマトリックス「中古車販売における販売者と購入者それぞれがもつ情報」の適切な位置に貼り付けることを指示する。</li> <li>◇議論の際、「根拠を示す」、「相手の意見を尊重する」、「妥協点を模索する」ことを指示する。</li> <li>◆机間指導により生徒のつまづきを把握し、協議する内容と進め方を指示する。</li> <li>◇根拠を示しながら発表させる。さらに、話し合いの過程も発表させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート2の作業を通して、「情報の非対称性」を読み取り、消費者問題の原因を考察することができる。「思考・判断」（ワークシート）</li> <li>・ワークシート2の作業によって、根拠を示しながら説明することができる。「技能・表現」（ワークシート）</li> </ul>
<p>4 消費者保護基本法と消費者基本法を比較することにより、消費者基本法の意義を考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 消費者基本法に新たに追加された「情報の質及び量並びに交渉力等の格差」と「消費者の自立」を読み取ることにより、社会の変化を推考する。</li> </ul> <p>5 振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時において学習した消費者問題の原因の一つである「情報の非対称性」を、現代社会の諸課題に当てはめて考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇消費者保護基本法（1968年制定）と消費者基本法（2004年名称変更）を比較し、消費者基本法に新たに追加された記述内容を抜き出し、ワークシート3にまとめることを指示する。</li> <li>◇本時で学んだ「情報の非対称性」という概念を、現代社会の諸課題を考察する際に用いることにより、社会の仕組みや背景を考察することができることから、本授業は「知識の活用」を目指したものであることを伝える。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">貼り付けた付箋紙について、その根拠を説明させましょう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">★自分の思考過程を整理することができます。さらに、他者から意見を聞き、自分の考えと他者の考えを比較することができます。</div>